

# 内藤通信

## 令和2年第2回定例会 一般質問



- 新型コロナウイルスに関する医療従事者への支援について
- 前回質問した側溝の清掃について進捗の確認と取り組み方の提案
- 教育問題について
- 今年の教科書採択の考えについて

発行者 | 内藤良介  
〒981-1105 仙台市太白区西中田5-7-8-202  
TEL 022-242-0286

### 活動報告



青葉山公園にある側溝のつまりによる冠水に対しての要望がございました。  
現在は青葉区公園課により側溝の清掃がなされ、青葉山公園と宮城縣護國神社の水溜まりの軽減となりました。



太白団地において歩道にある境界線のブロックが突き出している事に対し要望を頂きました。  
順次突き出している境界線のブロックを平らなものにして頂くことになり歩行者の安全が守られるようになります。



以前柳生にあるガードレールが錆びて老朽化し危険だというものを直して頂きました。  
以前要望があり、子供達も通り危険だとの指摘があったものですが、新しいガードレールに変えて頂きました。



歩道にある樹木が大きくなりすぎて歩道のコンクリートやブロックを破壊してしまい、大変危険になっておりました。  
写真のような状態になっており地元町内会からも要望があった場所を市民の皆様の安全のため全体的に本年度中に直して頂く事になりました。

見えにくいT字路にカーブミラーを設置して頂きました。  
地域の方から危ないとお話があり、私自身も現地を確認したところ危険な状態でしたので、設置をして頂きました。



ご意見・ご要望がありましたら  
FAX.022-242-0286 までお送りください。



### 議会質問を受けてモデルケースを作るために、側溝清掃をして頂きました。

11月10日、11日、12日と太白区中田地域にて地域貢献活動の一環として側溝清掃を民間企業の協力を得ながら実施している現場を私も天野区長と一緒に視察しました。私が令和2年第1回定例会にて減災の観点から側溝の清掃の必要性を質問しましたが、様々な問題もあり中々難しいとの答弁がありましたので、その問題を解決すべく令和2年第2回定例会にて市民の皆様の安全・安心のために「民間企業・町内会・仙台市」と協力することにより、側溝清掃を行えないかと再度質問を致しました。仙台市としては初めての事業となるので、仙台市全体として行うのは難しいというような答弁を頂きました。その後、天野太白区長からまずはモデルケースとして太白区管内にて行ってみたいかどうかとお誘いを頂き、先日の中田地区の側溝清掃実施したところでございます。これからモデルケースを作るためにも、今回行って頂いた内容を含め、検討を重ねながら市民の皆様方の安全・安心につながっていければと思っております。このように、私が質問したことにより具体的に話が進んでいます事に対し、民間企業や町内会の御協力に対して深く感謝しますとともに、天野区長をはじめ太白区役所の皆様方にも心より感謝致します。





新型コロナウイルスに関する医療従事者への支援について検討して頂きたい。

仙台市

公平性の観点から難しいが、宿泊促進キャンペーンを段階的に展開すべく準備を進めています。



災害を減らすため、あまり予算をかけずにできる側溝の清掃などは早急に行うべき。

仙台市

浸水履歴や地域からの要望を踏まえ実施しているところでございます。



モラル教育や道徳を授業参観で親子と一緒にいるときに学んでもらってはいかがでしょうか？

仙台市

教育委員会の取組を支援してまいります。



教科書の採択について、「公正性と透明性」を高める改善が十分に図られているか疑問視する声があります。

仙台市

設定された採択方針にのっとり、公正性、透明性を確保した採択を行ってまいりたいと存じます。

質問項目

新型コロナウイルスに関する医療従事者への支援について

宮城県で出された新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業のように、仙台市独自の医療従事者への支援についても検討して頂きたく、質問しました。

教育問題について

オレオレ詐欺や家族間の事件の多発など、近年このような事件が増えている根底には人としてのモラルや道徳心が薄れてしまっているのではないかと考えます。

前回質問した側溝の清掃について進捗の確認と取り組み方の提案

取り組みにあたり、あまり予算を掛けずに災害による冠水を軽減するため問題点と対する解決方法を考え提案致しました。

今年の教科書採択の考えについて

教科書採択に関して「公正性と透明性」を高める改善が十分に図られているか疑問視する声もある中、是非市民の皆様理解出来る教科書採択をして頂きたいと考え、質問しました。

こちらから仙台市議会の中継動画をご覧いただけます

内藤りょうすけ 一般質問



仙台市議会 インターネット 議会中継



内藤：まずは医療従事者をはじめ市民の生活を支えるためにご尽力頂いている各分野の関係者の皆様に改めて敬意と感謝を申し上げます。今回の新型コロナウイルス対策として仙台市としても独自の支援策を含め行って頂きました。しかし、今までの支援策は感染拡大防止の観点からの対策であります。そこで是非、医療従事者等の新型コロナウイルスから市民を守って頂いている方々に対しても支援の検討を行って頂きたく思います。先日宮城県で新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業が出されました。

新型コロナウイルスが終息するまではなかなか難しいところだとは思いますが、仙台市独自の支援策として、例えば地元の秋保や作並の温泉宿泊券等を支援し、医療従事者の方々に慰労と感謝の気持ちを表わしてはいかがでしょうか？

地元温泉街は仙台市にとっても大きな観光資源であります。今後の仙台市の観光資源としても重要な温泉街への経済支援も含めて、今回仙台市の緊急経済対策第三弾として宿泊促進キャンペーンを提案されておりますが、その一環として仙台市独自の医療従事者への支援についても検討して頂きたく思います。当局のお考えを伺います。

A：新型コロナウイルス感染症対応の最前線で御尽力されている医療従事者の方々に対しましては、心から感謝を申し上げるところでございます。特定の業種の方々に限定して宿泊割引を行うといった取組につきましては、公平性の観点から難しいものと考えておりますが、現在、交流人口の回復を目的として宿泊促進キャンペーンを段階的に展開すべく、準備を進めているところでございます。日々、御苦労されている医療従事者の方々にぜひこのキャンペーンを御利用いただき、少しでも心身の疲れを癒やしていただきたいというふう存じます。

内藤：前回私が質問をしたように、側溝の清掃をして頂いただけで冠水しなかったところもでございます。これから台風が来る季節となります。避難所の新型コロナウイルス対策はもちろんです。少しでも避難所に行かなくてもすむように早急に対応をする必要があると思っております。そこで限られた予算の中で、なるべく予算を使わないで出来るやり方の検討も必要だと思っております。

例えば、何月何日の何時から何時までの間にこの町内の側溝の清掃を行うと決めます。町内会の方は側溝の蓋が重くて開けられないとの事でしたので、仙台市が側溝の蓋を開けゴミ袋を準備します。その後に町内会の皆様方のご協力を頂き側溝の清掃をしてもらい、準備しておいたゴミ袋に入れてもらいます。終了時間に改めて仙台市がその場所に行き、側溝の蓋を閉め、ゴミ袋を回収するやり方もあるかと思っております。しかし、町内会では高齢化にともない難しいという所もあると思っております。私もこの件について数か所の町内会の方々とお話しをさせて頂きました。側溝の蓋を開けられない・ゴミを捨てるのが大変だという問題を仙台市で対応していただけるならば可能ですとお答えも頂きました。

新型コロナウイルス対策で大変な時期ではございますが、このようなやり方で予算はあまり使わずにこのような災害を減らすためや市民の皆様安心・安全、さらに避難所に行かなくてもよくなる可能性を増やす

意味でも早急に行うべきだと考えますが、当局のお考えを伺います。

A：側溝の清掃につきましては、浸水履歴や地域からの要望を踏まえ実施しているところでございまして、現在は、令和元年東日本台風以降に要望がありました箇所も含め、清掃を進めているところでございます。また、町内会の清掃活動などによって発生した土砂やごみなどにつきましては市が回収するなど、地域との連携も図っているところでございます。一方、近年では、高齢化により清掃を行うことが難しい地域もあり、市に対する清掃の要望が増加傾向にございます。浸水被害の軽減に資するこうした取組につきましては、御提案の民間企業によるボランティア、こういった支援もいただくなど、工夫しながら地域と連携した安全・安心なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

内藤：近年この日本におきまして様々な物騒な事件が多々ございます。例えば近年増えている詐欺や、家族間の事件等が多くなってきております。以前はこのような事件は少なかったと思っておりますが、近年このような事件が増えている根底には人としてのモラルや道徳心が薄れてしまっているのではないかと考えます。そのような考えから、教育問題について伺います。

現在問題となっているモラル教育や道徳を授業参観で親子と一緒にいるときに学んでもらってはいかがでしょうか？このようなやり方でモラル教育や道徳を親子と一緒に学んで頂く事で家庭内でもこのような共通認識での教育ができるのではないのでしょうか。当局のご所見を伺います。

子供達は学校や家庭の両方で学んだ事により成長し大人になっていくものだと思います。算数や国語・英語・理科・社会というような学力の学びももちろん大切な事でございますが、子供達が道徳をしっかり学んで頂き成長してもらうことで近年多くある悪質な事件等も減っていくのではないかと考えますし、将来この国を背負って頂かなければならない世代になった時に共通の道徳を学んでいないことにより、協調性なども薄れ連携を取れなくなってしまうのではと心配するところでございます。個々の能力は高くても連携が取れない事で1+1=3どころか1+1=2にもならなくなってしまうのではないかと心配です。

このような観点からモラルや道徳をしっかりと学んで頂く事はこの国の将来を考える場合に必ず必要なものだと思います。それが仙台市のためにも必要な事だと考えますが市長のご所見を伺います。

A：これからの社会を担う本市の子供たちが、多様な価値観を持つ人々と手を携えながら問題解決に当たろうとする態度を育み、考えを深めていけるよう、教育委員会の取組を支援してまいります。(市長)道徳科は全ての教育活動を通じて行う道徳教育の要であり、その授業を保護者や地域の方々に公開することは、学校における道徳教育への理解と協力をいただく上で有効な方法の一つである。

また、保護者の方が参観することにより、家庭において道徳の授業が話題になるなど、親子のコミュニケーションが一層深まることも期待されます。今後も、家庭や地域と連携を図りながら、児童生徒の豊かな人間性や道徳性を育ててまいりたいと存じます。(教育長)



天守閣自然公園 木の家にて撮影

